

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473200895	事業の開始年月日	平成16年3月
		指定年月日	平成16年3月
法人名	社会福祉法人まごころ会		
事業所名	グループホーム神田園		
所在地	(〒 241-0012) 横浜市旭区西川島町68-11		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年11月	評価結果 市町村受理日	平成31年2月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>神田園文法を用いてお声がけする事でご利用者さまの意思決定支援と尊厳の保持に努めています。</p> <p>生理的・安全の欲求への支援にめどが立ったら、愛情と所属の欲求を満たすために、「お手伝い」により持ちつ持たれつ、頼り頼られての関係の構築に重点を置いて活動しています。</p> <p>また、さらに上位の承認欲求に対して日本漢字検定協会の「漢検」受検をプログラムとして取り入れ、一人ひとりに合わせた勉強の支援やお手伝いをする事で日々の生活の充足感と他者から認められる・評価されたいという内面の欲求へ対応しています。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年12月4日	評価機関 評価決定日	平成31年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 グループホーム神田園は、相鉄線鶴ヶ峰駅南口から徒歩で10分ほどの閑静な住宅地にある。広い敷地に建つ鉄筋2階建ての建物は、2ユニットからなり、各ユニットの中央に陽ざしが入る吹き抜けの坪庭がある。リビング、ダイニングは、対面式のキッチンから利用者を見守りやすいレイアウトになっている。利用者はダイニングの大きなテーブルや、リビングのところどころに設けられたコーナーやソファで他の利用者の視線などを気にせず、思い思いの時間を過ごしている。</p> <p>【神田園大原則と文法の浸透】 職員は入職時に5項目からなる理念の「神田園大原則」、利用者を人生の大先輩として尊敬の念を持ちケアに当たることや、神田園独自のケアの基本となる利用者の意向にまずは「賛成」し、少し時間をおいて「提案」する「文法」を理解している。管理者は日ごろから、人生の大先輩の利用者からは多くの学びがあることや、まごころの気持ちで接すること、丁寧な言葉遣いをすることで利用者との信頼関係ができ、そのことが利用者の穏やかな生活につながっていると職員に伝えている。</p> <p>【利用者の自己決定の支援】 利用者からの「何かをしたい」、「してほしい」、という言葉は職員は、神田園の文法を使って全て受け止め、すぐできること、時間を要することなどを、理由とともに伝え支援している。毎年漢字検定に挑戦する利用者には、利用者ごとの勉強法や、試験当日の会場の環境整備などきめ細やかな配慮をしている。利用者の声を直接運営に反映させることができないかと管理者は考えており、今までも、利用者の要望や意見は職員が代筆してリクエストカードに記入していたが、今年度から、利用者数々が管理者と食事をしながら話をする事で、直接意見を言える場を設けることになっている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	あさがお

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し常に確認できるようになっている。また、その理念どおりに利用者さまに提供できるよう日々努めている。	「神田園大原則」を理念に掲げ、入職希望時から共感する方を職員に採用している。入職時に時間をかけ研修をし、神田園の職員としての立ち位置を説明している。職員は日々のケアで理念の実践に努め、利用者との信頼関係を築いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶、地域の行事参加、ボランティア（マンドリン演奏やお話し相手、紙芝居）と繋がっている。地元の中学生とも交流している。	地域に開かれた事業所を目指し、事業所が地域に何ができるかを考慮している。今年度、災害時に町内会の一時避難場所に指定され、貸し出し用のファーストエイドキットを設置した。利用者が町内会の盆踊りや、どんど焼きに出かけたり、職員が防災訓練に参加協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交わりあいを大事にし、表の掲示板に介護相談の案内を出し随時受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	玄関の洗面台にうがいコップ増設、防犯システム導入、危険物の保管場所に関して意見を反映させた。	運営推進会議は今年度3回開いている。参加者は町内会長、副会長、地域包括支援センター職員、家族、職員2名で、事業所の活動の様子などを見ながら気づいたことや意見などを話し合っている。事業所から災害時の備蓄品や、AED、ファーストエイドキットの設置についての報告や情報を発信している。家族から玄関の給湯器の故障が伝えられ、すぐに対応をしている。	

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の月の行事や出来事をオブザーバーのケアプラ職員に報告し、地域の行事にも参加させて頂いたり地域との関係を大事にしている	地域包括ケア会議への出席や鶴ヶ峰地域ケアプラザの「ふれあい祭り」では近隣のグループホームと合同で認知症診断のブース担当として、毎年協力している。	
---	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠や身体拘束はせずセンサーや見守りの中で安全を図っている。	身体拘束をしないケアを実践して門扉に至るまで日中はどこにも施錠をしていない。「子ども110番」や「ハマハグ」に登録をして地域の方も自由に入ることができる環境がある。利用者が外に出たい時には文法を使い、まず賛成して利用者の気持ちを受け止めている。利用者は外に出たい気持ちを受け入れてくれる安心感から、離設などはない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が毎日手に取るファイルの表紙に防止喚起の用紙が貼られている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が研修をうけご家族と話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が窓口となることで説明に間違いや伝え間違いがないようにしている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にリクエストシートを置き、面と向かって言い難いことも率直に要望して頂けるよう配慮している。また、面会時にはお話を傾聴するよう努めている。</p>	<p>リクエストシートに要望などを書く家族はあまりいないが、直接要望などを職員や管理者に話ができる関係になっている。事業所内の器具の故障を伝え改善を求めたり、利用者の食べたい物などの要望も直に話が出ている。利用者それぞれに役割を持ってもらうために、利用者の意見を聞く「利用者の会」を今年度中に立ち上げる予定にしている。利用者からネーミングを募集して検討をしている。</p>	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リクエストシート、意見箱の設置。管理者は積極的にスタッフとコミュニケーションをし、職員の思いや意見、家庭の悩みなどにも耳を傾けている。	管理者はじめ職員は、勤務歴の長短にかかわらず忌憚のない意見が言い合える関係ができています。職員は意見や要望をリクエストシートに記入したり、管理者に直に伝えている。職員の提案で今年度利用者とお菓子作りを楽しむ「スイーツ倶楽部」が実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度においてより高度な介護がしたいと思う向上心にたいし支援している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の仕事の中で、管理者とのマンツーマンで相談・指導が受けられる。新人にはエルダーメンターがつき、介護者が一番不安になる救命処置については毎年普通救命講習を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホーム管理者とは、会合、地域包括支援センターのイベント、地域のイベントで交流・協働している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族との面談で事情を把握、また初期の信頼関係作りに多大な時間を割いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族と積極的にお話をしコミュニケーションをはかり、意見交換、信頼関係構築をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居ありきの姿勢ではなく、見学・体験入居などで、本サービスの利用が妥当なのか一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみから台所仕事まで能力と健康状態に応じて可能な限り家事や様々なお手伝いをお願いし持ちつ持たれつ、頼り頼られての関係を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の会話の中で家族の話もと入れると同時に面会に来て頂いた際には写真を撮るなどして絆を大切にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出がスムーズになるよう支援しています。また面会に来られた際はその空間・時間を大事にしてゆっくりとお話しして頂ける様努めている。手紙や電話で知人との関係を維持している方への支援。	関西出身の利用者の誕生日には、利用者が昔から好きなお好み焼きやたこ焼きを食べに職員と個別に車で出かけている。携帯電話で家族と連絡を取ったり、食事会や法事、墓参りなどに家族同伴で出かけている。食事時には毎日エプロンをする方や、本を読んだり、刺繍をしたりする方など、入居前からの生活習慣や趣味の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間をとりもって会話を促したり、皆で歌を歌ったり、ゲームなどをして相互交流を図っている。また、積極的にレイアウトや席替えをして、その時期の関係性や認知症状に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去＝関係の終わりとは考えず必要があれば転院先への情報提供はもちろん相談に応じています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	表情やそぶりなどにも注意して気持ちを汲めるようにしている。また声掛けは「～していただけますか？」と説明提案式にしている。	職員は利用者とできるだけ話をする時間を作っている。言葉だけではなく、身振りや表情で利用者の思いを察し、声掛けをしている。嫌なことは特に表情や態度に出るため利用者の嫌なことは繰り返さないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント書式を用いてご本人視点での生活歴や趣向の把握に努めている。またそれを日々のお手伝いやレクの参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ちょっとした変化やその時の発言や表情なども記録できるように書式を変更した。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意見を尊重しリクエストシートを作成し本人がよりよく暮らせる為に日々話しあいに努めている。	センター方式を採用してアセスメントをしている。入居時にケアの方向性を定め、事業所独自の「生活支援計画書」を作成し、課題や目標を記入している。「生活支援計画書別紙」に注意事項や支援内容を記入し、必要に応じ随時更新している。計画作成担当者が職員と意見交換をしてモニタリングをし、ケアプランの見直しをしている。業務日誌に特記事項などの引継ぎ事項を記入し、職員が共有している。利用者の希望は聞き取った内容を職員が代筆してリクエストシートに記入してケアプランに反映させることもある。	計画作成担当者が職員の個別の意見を聞いたり、リクエストシートの活用で意見を聞いていますが、職員がカンファレンスに参加し、互いの意見に耳を傾けることは、職員同士切磋琢磨して自己研鑽につなげる良い機会ですので、実現を期待します。

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の職員間の情報共有や日々の細かな事でも記録に記入する等してケアプランを作成している。</p>		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に入居者のニーズに対応し、適した支援ができるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年までは近隣の飲食店、ケアプラザ、図書館、プール、バスなどの地域資源を活用していた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療時にきさくに会話することができ医師との信頼関係づくりを支援している。	利用者は協力内科医の往診を月2回受けている。非常勤の看護師を配置して、週1回利用者の健康チェックをしている。往診医以外の他科は家族が対応して受診している。受診情報は申し送りノートに記録して共有している。歯科は毎週希望者が受診している。提携医は診療時間は電話に出られないため、急変時は119番対応にしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のささいな変化や疑問に思った事や気づきを伝え助言をもらったものについては申し送りノートに記載し広めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報をまとめた用紙に加えスタッフによる口頭での日常注意点などを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族、医師、現場の希望を考慮し、事業所として出来る事と出来ない事を共有している。	契約時に「重度化した場合の対応指針」で説明をしている。看護師の配置はあるが非常勤で常時いる体制ではないことや、協力医も診療時間などがあるため急変時にすぐ来てくれるかもわからないため、現状では看取りを行える体制にないと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を1年に1度受講することを法人で決め開始している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士立会いのもと車椅子や歩行が困難な利用者のタオルを使った避難法などを体験、訓練した。また地域の消防避難訓練にも参加した。	今年度は9月に夜間想定 of 消火訓練と避難訓練をしている。年度内にあと1回夜間想定 of 訓練を予定している。本番を想定した訓練時には、家族とショートメールサービスを使い連絡する体制ができています。管理者が地域の災害プロジェクトのメンバーで意識が高く、災害時の備蓄や備品の備えも万全を期す方針でいます。各ユニットの入り口付近に、利用者ごとの非常用品の入ったリックを備えている。玄関には、地域住民のための非常用のファーストエイドキットを用意している。夜間は警備会社の機械警備が入っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩、目上の人、お客様、神田園の大原則を心得て尊厳を尊重した対応しております。	利用者は人生の大先輩として、尊厳を大切にし、利用者から多くを学ぶことを神田園大原則で謳っている。職員は常に神田園の大原則を念頭に置き丁寧な言葉遣い、相手の目線に立ったケアの実践をしている。訪問当日、重度の利用者に寄り添い、丁寧な言葉づかいで対応している若い職員を目にした。事務所内のパソコンや、個人記録類の保管庫の鍵は管理者のみ使用できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	神田園文法を用いて「～しませんか？」という説明提案の声掛けと肯定的な返答を行ない、利用者の自己決定支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、入浴などご自身のタイミングで叶えられるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人で選べない方は2日連続して同じ服にならないよう職員が配慮している。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各個人の能力に応じて普通食、ムース食、やわらか食、刻み食と提供している。職員は普通食を利用者と同じテーブルで食べている。	食材とメニューは委託業者から配達され、利用者の状態に合わせて職員が調理をしている。利用者は食べたい物をリクエストカードに書いている。誕生日は利用者の一番の晴れの日として、本人の希望を聞き、イベントの中で食事を提供している。関西出身の方がビールを飲みながらお好み焼きやタコ焼が食べたいという声を実現させている。	
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分共に各利用者が十分に摂取できているか日々記録をチェックし十分ではない人には補助食を提供している。水分量は医師の指示をもとにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの声掛け、食前には口腔ケア体操をするので唾液の分泌を促している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して誘導している。また羞恥心や不快感を考慮して様々な種類のリハパンやパットを組み合わせ支援している。	1階で6名中4名、2階は7名中4名の方が自立してトイレでの排泄ができています。全介助の方も、排便は二人介助でポータブルトイレに座っている。夜間は睡眠を優先しているが、巡回の際にトイレに行く利用者もいる。訪問当日、トイレ誘導時の声掛けを、利用者の羞恥心に配慮して周囲に気づかれないようにさりげなく行っている職員を目にした。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認とそれにあわせて歩行、足上げ、腹圧マッサージ、階段昇降、ストレッチなど下剤のみ頼らない排便コントロールを実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望やタイミングに合わせて入浴支援。入浴中は1対1でゆっくりできる機会なのでお話しをしたりCDをかけたり入浴剤を入れてみたりする。	入浴は週2回を基本に、当日の予定や利用者の体調、気分なども考慮し、無理のないように支援している。神田園の文法で利用者の気持ちを優先して声をかけると、ほとんどの方は拒否もなく入浴している。同性介助を希望する方には、最優先で希望を受け入れている。全介助の方は浴室用車いすでシャワー浴対応している。利用者は入浴剤や歌を歌ったりすることで入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方については寝たらそのままではなく30分～1時間ほどで声掛けを行なう。また、外気浴など太陽を浴びてもらったりして夜も眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ボードをつくり服薬の状況を勤務する介護者全員で確認できる。誤薬防止のため、薬の確認は介護者二人で確認しながら行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日本漢字能力検定協会の「漢検」に挑戦し日々の生活の張り合いや尊厳欲求への働きかけを行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望があればできるだけ叶えられるようスタッフ間で仕事を融通し合っている。車で遠出することもたまにある。	ベランダや庭に続くテラスも広く、恵まれた環境があるため、外に出ることはリスクが高いとして敷地内での外気浴をすることが多い。天気の良い日には、利用者は自由に庭やベランダに出入りして気分転換をしている。リビングで外の景色を見ながら自転車（フィットネスバイク）こぎをしたり、階段昇降で筋力トレーニングをする方もいる。花見は近くの公園や海軍道路にドライブに出かけている。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持参された方は事務所の金庫でお預かりし、必要に応じて使用できることを伝えていきます。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話で家族にしたり、手紙を書いたりして家族との絆を大事にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	視線をコントロールした居間フロアのレイアウトにより利用者同士の間関係、認知症による混乱や不快刺激を軽減させている。	キッチンから見渡せる広い食堂を兼ねたリビングは開口部も大きく採光もよく明るい。1階リビングに面したテラスや2階のリビングに面したベランダはともに広く、外気浴に適している。1階のリビングのコーナーにはソファ、テーブルのセットやエレクトーンが置かれ、くつろぎの空間になっている。リビングのところどころには1人になれるコーナーや、新聞、雑誌、文庫本を備えた図書コーナーも用意されている。リビングの壁面の行事の写真やクリスマスツリーで季節感を演出している。	2階のリビングの一角が季節用品などを置く物置になっていてせつかくの空間が活かされていません。利用者の生活の潤いや、安全確保のためにも活用方法を考えることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	柱や間仕切りを利用して意図的に死角を作る事で共有空間でもプライバシーが保てるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅寝室の写真を撮っていただき、自宅と導線が同じになるよう引越し時レイアウトして頂ける様支援している。	廊下から少し奥まったところに居室ドアがありプライベートな空間を作っている。居室にはエアコン、一間の押し入れ、入り口のロッカーが用意してある。利用者は使い慣れた家具や日常生活用具などを持ち込み、好きな絵やぬいぐるみなどを飾っている。職員は入居前の生活環境に配慮しつつ、利用者のADLの変化に応じて家具の配置を変えるなど、利用者が安全に暮らせる部屋づくりをしている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食席のレイアウトや椅子を増やしたりと「自分らしく」生活を送って頂けるように配慮している。		
----	--	---	--	--	--

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	ばら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し常に確認できるようになっている。また、その理念どおりに利用者さまに提供できるよう日々努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶、地域の行事参加、ボランティア（マンドリン演奏やお話し相手、紙芝居）と繋がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交わりあいを大事にし、表の掲示板上に介護相談の案内を出し随時受け付けている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	玄関の洗面台にうがいコップ増設、防犯システム導入、危険物の保管場所に関して意見を反映させた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の月の行事や出来事をオブザーバーのケアプラ職員に報告し、地域の行事にも参加させて頂いたり地域との関係を大事にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠や身体拘束はせずセンサーや見守りの中で安全を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が毎日手に取るファイルの表紙に防止喚起の用紙が貼られている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が研修をうけご家族と話をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が窓口となることで説明に間違いや伝え間違いがないようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カウンターにリクエストシートを置き、面と向かって言い難いことも率直に要望して頂けるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リクエストシート、意見箱の設置。管理者は積極的にスタッフとコミュニケーションをし職員の思いや意見、家庭の悩みなどにも耳を傾けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度においてより高度な介護がしたいと思う向上心にたいし支援している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の仕事の中で、管理者とのマンツーマンで相談・指導が受けられる。新人にはエルダーメンターがつき、介護者が一番不安になる救命処置については毎年普通救命講習を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が地域のグループホーム管理者と会合、地域包括支援センターのイベント、地域のイベントで交流・協働している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者は本人・家族との面談で事情を把握、また初期の信頼関係作りに多大な時間を割いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族と積極的にお話をしコミュニケーションをはかり、意見交換、信頼関係構築をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居ありきの姿勢ではなく、見学・体験入居などで、本サービスの利用が妥当なのか一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の体調によって家事活動を一緒に行なっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の会話の中で家族の話もとり入れると同時に面会に来て頂いた際には写真を撮るなどして絆を大切にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出がスムーズになるよう支援しています。また面会に来られた際はその空間・時間を大事にしてゆっくりとお話しして頂ける様努めている。手紙や電話で知人との関係を維持している方への支援。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で歌を歌ったり、ハーモニカを演奏してもらったり相互交流を図っている。また、必要にあわせレイアウトや席替えをして、その時期の関係性や認知症状に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去＝関係の終わりとは考えず必要があれば転院先への情報提供はもちろん相談に応じています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声掛けは「～していただけますか？」と説明提案式にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント書式を用いてご本人視点での生活歴や趣向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ちょっとした変化やその時の発言や表情なども記録できるように書式を変更した		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意見を尊重しリクエストシートを作成し本人がよりよく暮らせる為に日々話しあいに努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の職員間の情報共有や日々の細かな事でも記録に記入する等してケアプランを作成している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者に相談して入居者のニーズの変化に則した支援ができるよう努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年までは近隣の飲食店、ケアプラザ、図書館、プール、バスなどの地域資源を活用していた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療時にきさくに会話することができ医師との信頼関係づくりを支援している		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のささいな変化や疑問に思った事や気づきを伝え助言をもったものについては申し送りノートに記載し広めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報をまとめた用紙に加えスタッフによる口頭での日常注意点などを伝えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に管理者がご本人、ご家族、医師、現場の希望を考慮し、事業所として出来る事と出来ない事を共有している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を1年に1度受講することを法人で決め開始している	/	/
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士立会いのもと車椅子や歩行が困難な利用者の人をタオルを使った避難法などを体験、訓練した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩、目上の人、お客様、神田園の大原則を心得て尊厳を尊重した対応をしております		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	神田園文法を用いて「～しませんか？」という説明提案の声掛けと肯定的な返答を行ない、利用者の自己決定を支援できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	可能な限り、散歩、入浴、起床時刻などご自身のタイミングで叶えられるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各個人の能力に応じて普通食、ムース食、やわらか食、刻み食と提供している。職員は普通食を利用者と同じテーブルで食べている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分共に各利用者が十分に摂取できているか日々記録をチェックし十分ではない人には補助食を提供している。水分量は医師の指示をもとにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの声掛け、食前には口腔ケア体操をするので唾液の分泌を促している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンや習慣を把握して誘導している。また羞恥心や不快感を考慮して様々な種類のリハパンやパットを組み合わせで支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認とそれに合わせて歩行、足上げ、腹圧マッサージなど下剤のみ頼らない排便コントロールを実施している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限り希望やタイミングに合わせた入浴支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方については寝たらそのままではなく30分~1時間ほどで声掛けを行なう		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ボードをつくり服薬の状況を勤務する介護者全員で確認できる。誤薬防止のため、薬の確認は介護者二人で確認しながら行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日本漢字能力検定協会の「漢検」に挑戦し日々の生活の張り合いや尊厳欲求への働きかけを行なっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	たまに車で遠出することもたまにある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持参された方は事務所の金庫でお預かりし、必要に応じて使用できことを伝えていきます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話で家族にしたり、手紙を書いたりして家族との絆を大事にしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	視線をコントロールした居間フロアのレイアウトにより利用者同士の人間関係、認知症による混乱や不快刺激を軽減させている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	柱や間仕切りを利用して意図的に死角を作る事で共有空間でもプライバシーが保てるよう配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅寝室の写真を撮っていただき、自宅と導線が同じになるよう引越し時レイアウトして頂ける様支援している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所にわかりやすく掲示し自立した生活ができるように支援している		

目標達成計画

事業所名

グループホーム 神田園

作成日

2019年2月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	19	2階のリビウの一角が有効活用されていない。	利用者がくつろげるスペースに変える	・荷物の撤去 ・どの様子をスペースが有効なのか検討し改修する	1年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。